

歩道橋の上まで桜の花が咲き乱れています。花の上を歩いているような感じになって、春になるとこの歩道橋を渡るのが楽しくなっています。



街は花盛り

リアリズム写真集団 菅谷秀昭

鈴鹿のみなさん、こんにちは

参議院議員 たけだ良介

新春のつどいで鈴鹿を訪ねたのは1月16日。早3ヶ月も経ちますね。この間にロシアによるウクライナ侵略が発生しました。今回の侵略は国連憲章、国際人道法などに反する蛮行であり強く抗議します。

我が家では、この4月に長男が中学校に入学します。ちなみに、次男は小学校5年生に、三男は小学校2年生になります。まだまだブカブカの制服も、3年もすれば小さくなるのでしょうか。長男は「選挙がんばってね」と言ってくれます。あっという間だった1期目の6年間、長男の制服が小さくなるのもあっという間でしょうか。子どもたちに戦争のない平和な社会を手渡すため、憲法9条を守り抜けるよう日本共産党の躍進を勝ち取りたいと思います。



ロシアの蛮行 許せない

鈴鹿市後援会長 吉田一男

戦争で領土を広げるなどという野蛮な考えを人類は卒業したはずでした。ロシアによるウクライナ侵略は時代を100年も巻き戻すもので、許せません。「ロシアは侵略戦争をやめよ」と街頭でプラカードを掲げ、また宣伝カーで地域を回りました。戦争やめよの世論を大きくするために、自分にできることを精一杯やりたいと思います。「戦争反対は政治的発言ではない。右翼でも左翼でもない。『仲よく』だ」との発言がしんぶん赤旗に載っていました。いい言葉なので、印象に残りました。

宣伝カーを走らせていると子どもたちが手をふってくれます。中には自転車についてくる子も。この子たちに悲しい思いはさせられません。共産党をもっともっと大きくしなければ。

(寺家4丁目)

ウクライナの夏



キエフからウクライナ西部を旅したのは、独立から15年後の2007年。ひどく暑い夏だった。原発事故の歴史を伝える国立チェルノブイリ博物館の衝撃の展示、独立広場周辺ののんびりした賑わい（矛盾しているようだが本当）、千年の歴史を持つ美しい教会等が印象深い。首都を出れば荷馬車が走り、楽しげに牧草刈りやキノコ売りをする子供達の姿があった。刺繍を施した華やかな民族衣装の結婚式や祭に出くわすこともあった。ロシアの侵攻により、それらは今どうなっているだろう。

ポーランド国境に近いリビウからキーウへ戻るときの列車でのこと。片道11時間の長旅を、4人用の個室コンパートメントで一緒に過ごしたのは10歳の少年とその祖母だった。不運だったのは、私た

ちの車両だけがエアコンが効かなかったことだ。強烈な蒸し暑さに少年は上半身裸になり、祖母もシャツ1枚になって耐えていた。モスクワで働く母を訪ねてゆくのだと、少年は言った。二人はポーランドから乗車しており、私たちが降りるキーウから先も長い時間を列車で過ごす。祖母が暑さで体調を崩さずにモスクワに到着するよう、そして少年が母親と幸せに再会するよう願った。国間の紛争がないときの国際列車でのできごとだ。

車窓を流れるのは青い空と小麦畑。それは、ウクライナ国旗そのままの素朴な豊かさと誇りの色だった。

(隆平・はつこ)



カバシ村のフェスティバル



モスクワ行の国際列車



刈り草を荷馬車に積み込む／ファスト近郊



屋外ミサ／ファスト近郊



ウクライナの民芸品(木皿)



結婚式／ミクリチン村にて

新春のつどい(1/16)に参加したHさんが高橋さつき議員に感想を寄せてくれました。紹介します。



政治的な話する人は居ないから余り分からない事が多く初めて聞く様な話もあり。けれどサツキさんと男性二人(石田秀三市議と武田良介参院議員)の話をして聞いて、こんなふうに議員さんは頑張ってくれているんや、私達が毎日の生活をしている中、私達の生活を考えてくれている人が居るんだと思い、私も忙しく話も聞く時間もないママ達に伝えないと、と思いました。サツキさん達の活動を少し話してみたら次からは知り合いにも連絡したり一緒に投票に行こうと。人数はわずか13人でしたが私のつたない話を聞いてくれて嬉しかったです。(磯山 H)

Hさんは「新春のつどい」で聞いた話を、身近な集まりでママたちに伝えてくれました。「武田さんの話は面白かった！今度も都合が合えば子連れで行きたい」とHさんは言っています。(高橋さつき)



縄張り争いする動物たちでも 命までは奪わない

鈴鹿市議会議員 高橋さつき

娘は今年の4月から初出勤となりました。ブラックな職場だったらどうしよう…と、不安と緊張でいっぱいみたいでしたけど、駅のホームに向かうスーツのうしろ姿は、凛としていて大きくなったなあって、しみじみ感じました。

自分の意見をしっかり持つ娘は、なんやかんや言いつつ乗り越えていくだろうなと思いつつ見守っています。

子どもの成長を見守る、そんな当たり前の日常全てが突然に奪われたウクライナの状況を思うと胸が苦しくなります。縄張り争いをする動物たちでも命までは奪いません。大きな戦争をし、反省してもまた一部の人の利権のために戦争を繰り返すのかとやるせないです。

これに便乗して、岸田政権や維新の会は、抑止力のためにと核兵器の共有や敵基地攻撃能力の保有、改憲を狙っています。でも相手に銃口を向けて、均衡を保つようなやり方は平和とは言えるのでしょうか？攻めて来たらどうするのかではなく、攻めて来られないようにするのが政治の力、外交です。『攻められたら…』とばかり言うのは『自分には政治力、外交力はない！』と公言しているようなものだと思います。

ロシア国民も命がけで反戦の声を上げ、世界中で何十万人もの反戦デモが行われています。私たちも世代も国籍も越えてつながって、『戦争はあかん！核兵器はいらん！』と声をあげ続けていきましょう。



青少年の森にしかない自然の風景

鈴鹿市議会議員 石田秀三

山歩きが好きな私は、鈴鹿の山にもよく出かけますが、昔と風景が変わってきているのを感じます。

人間による開発で普通の里山がなくなってきたり、特にサル、シカ、イノシシが増えてきて、山道が荒れていたり、樹や草の若芽が食べられて育たなくなり植生が変わってきたり。

この頃の鈴鹿の山では、夏場はどこに行ってもヤマヒルがいて、行けば必ず足や背中を2~3カ所食われてしまい、10日ほどは後遺症の痒みで苦しみます。子どもの頃は、小岐須のキャンプ場で寝転んでいても、ヒルなど会わなかったのに。もう初夏から秋口の鈴鹿の山には、行く気がしません。

ここにはサル、シカ、イノシシ、ヒルがいない！サッカー場問題が起こってこの半年は、青少年の森に頻繁に行くようになりましたが、この公園はどの季節に行っても、落ち着いた森の自然を味わうことが出来ます。昔ながらの里山の風景が残されている、

というか積極的に維持されているのです。多くの市民が訪れますが、森の中には立ち入らずに遊歩道や広場で楽しむようになってます。

何よりも、鈴鹿の山のどこにもいるサル、シカ、イノシシ、そしてヤマヒルがいない！街灯もなく夜は真っ暗で、鳥や虫が自然に生活できるようになっています。本当にいい公園だと思います。

サッカー場計画などは論外ですが、もう一つ「パークPFI」という県の事業が進めば、やはり多くの樹が伐採されます。こちらもその中身を注視して行かねばなりません。市民の皆さんと共に、このすばらしい森を守り残していきたいと思っています。



核兵器はダメ!



九条の会すずかの学習会で何度も講演していただいた西谷文和さんの著書に『戦争はウソから始まる』というのがあります。ロシア軍によるウクライナ侵攻が大変な状況です。

アメリカの政府高官の見解として「ウクライナ軍によってロシアが支援するウクライナの分離派が攻撃された」との口実でロシア軍の本格侵攻が始まったと伝えられています。

20年ほど前のアメリカによるイラク戦争、90年も前の旧日本軍による「柳条湖事件」、ナチスによるポーランド侵攻の口実などなど。

ロシアのプーチン大統領は「核戦力を運用する部隊に対して」2月27日に「任務遂行のための高度な警戒態勢に入る」よう命じています。「核兵器を使うぞ」という「おどし」以外の何物でもありません。

2017年国連で採択され、昨年1月効力を持つこととなった「核兵器禁止条約」は第1条で「核兵器による威嚇」を禁止しています。ロシアなど核保有の5大国はこの条約に参加していないとはいえ、世界の世論は見逃すことはないでしょう。被爆者の方達による長年の努力によって、今では「核兵器は非人道的である」ことは世界の常識となっています。

今年1月に核保有5カ国は「核戦争に勝者はおらず、決して戦ってはならない」との声明を発表しています。ロシアが核兵器を使うことのないように。ウクライナへの侵攻を無条件で、即時撤退することを願っています。

(徳田町 川北秀洋)



新シリーズ
鈴鹿の街 再発見

第7回

千代崎の由来

千代崎港／海岸／海水浴場・・・釣り人や海遊びの人たち、堤防や緑地で潮風にふかれながらゆったり過ごしたり、ウォーキングや散歩など老若男女それぞれ思い思いに時間を過ごしています。多くの人に愛される「千代崎」ですが、千代崎という町名はありません。

数年前、千代崎駅のポスターに、地名の由来が書かれていました。むかし鶴の生息地で、鶴は千年と、海岸を表す「崎」、千年崎から千代崎になったという、縁起のいい地名、駅名だそうです。

昔この地域の海岸地方は葦が一面に生い茂り、

沼沢や磯馴松の並んだ松原は鶴の生息地として全国的に有名だったとも聞きます。

千代崎散策は心身のリフレッシュになりますよ。

(岸岡 橋詰 圭一)



お知らせ

後援会 春のバス旅行

5月22日(日) 大阪・高槻方面

8:30 鈴鹿市文化会館バス停出発 予約制で先着40人

詳しくは別紙チラシ参照

